

令和2年1月16日
自治連合会懇談会

生駒市長2期目の方針と 具体的な取組

こむらさき まさし
生駒市長 小紫 雅史



今日お話ししたいこと

- I 生駒市の現状
- II 生駒市の課題
- III 2期目の方針と具体的な取組
- IV さいごに



I 生駒市の現状



1. 住みやすいまち

- ・ 本本当に魅力ある市区町村ランキング (2019年：ダイヤモンドオンライン)

奈良県1位 (全国46位)

- ・ 住みよさランキング (2018年：東洋経済新報社)

奈良県1位 (関西13位)



2. 定住希望率

生駒市にこれからも住み続けたい人の割合

84.7%

(類似団体)

関西：河内長野市 47.1%／泉佐野市 54.5%／三田市 60.0%／箕面市 80.9%

関東：東村山市 66.5%／武蔵野市 81.3%



3. 安心・安全

(人口千人あたり年間件数 平成30年)

刑法犯認知件数

4.02

県内12市中**最も低い**

人口千人あたり刑法犯 認知件数 (件)	
奈良市	6.05
大和高田市	5.77
大和郡山市	6.71
天理市	8.47
橿原市	8.05
桜井市	6.65
五條市	4.22
御所市	5.69
生駒市	4.02
香芝市	4.43
葛城市	4.88
宇陀市	6.73
全市平均	6.07



4. 採用試験 応募者数

5年連続1,000人超え

約3倍

全国8位・関西1位の応募倍率 (H28)

392

603

1,265

1,123

1,097

1,021

1,053

958

H23

H24

H25

H26

H27

H28

H29

H30

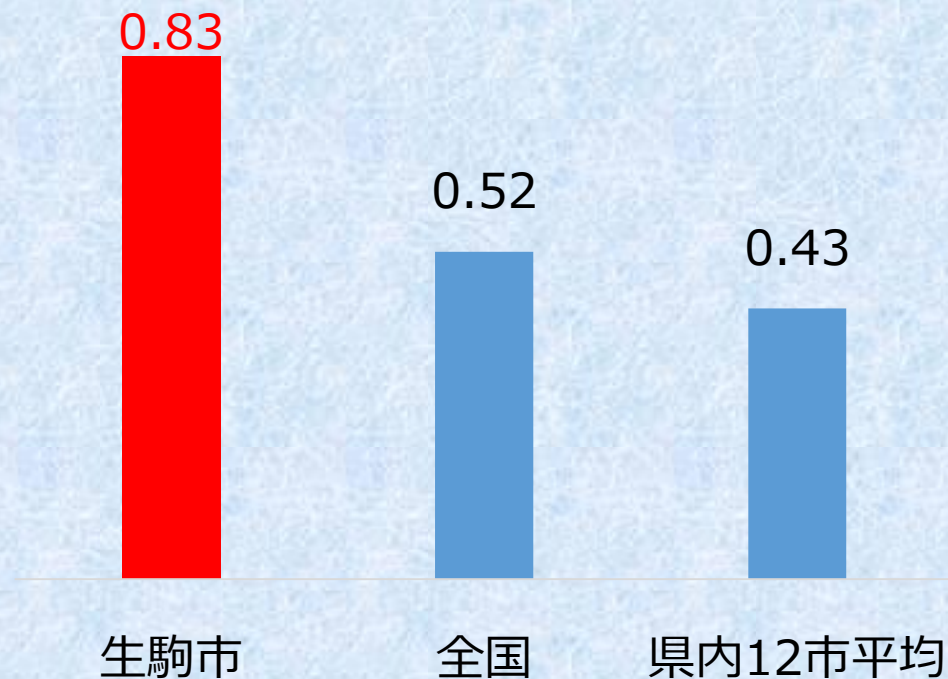


5. 財政力指数

0.83 (平成30年度)

全国平均 0.52

県12市平均 0.43



Ⅱ 生駒市の課題



生駒市の課題

1. 人口の減少
2. 高齢化の急速な進展
3. 地域消費の低さ
4. 女性就業率の低さ
5. 出生率の低さ



Ⅲ 2期目の方針と具体的な取組

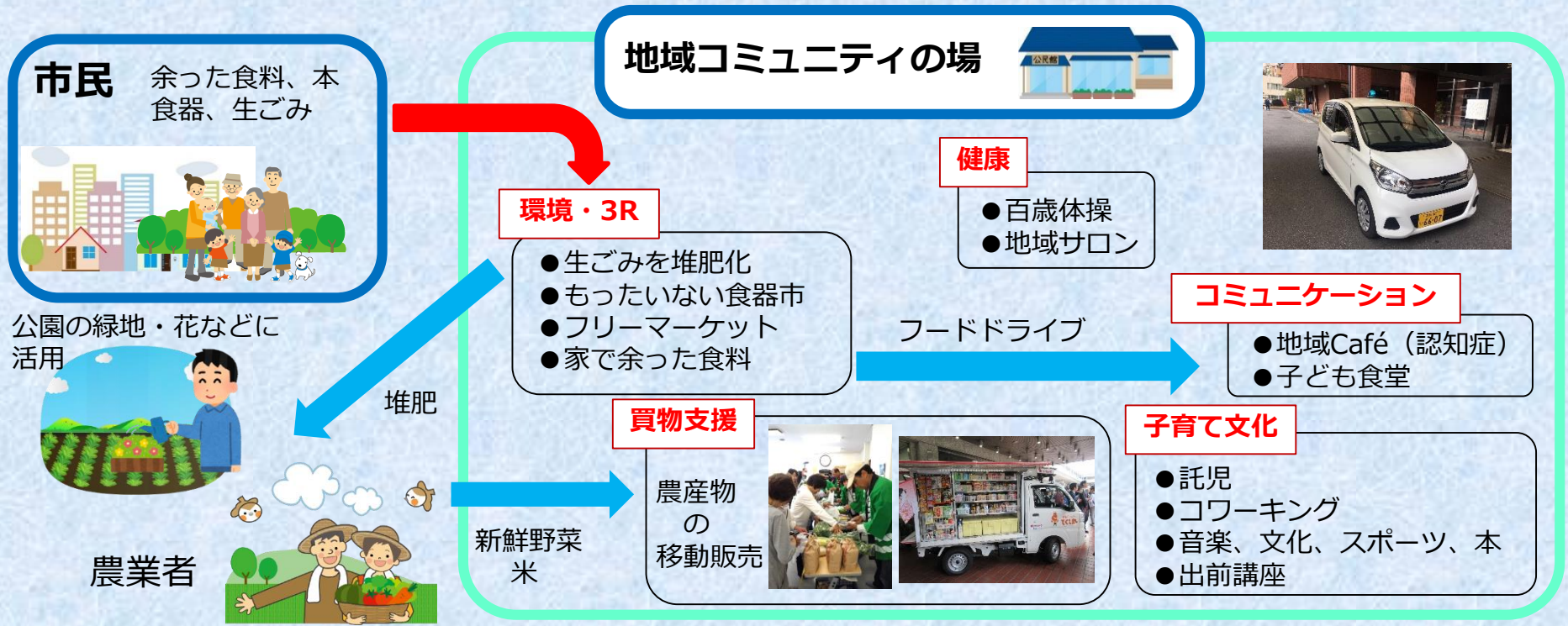


1. 自治体3.0のまちづくり

	自治体2.0	自治体3.0
市民との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民 = お客様 ・ 行政主導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民と共に汗をかく ・ 協創
基本目的	差別化	価値創造
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズに応える行政 ・ 民間企業に負けない！ ・ 「市民満足」の追求 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちを楽しむ！ ・ みんなの課題はみんな で解決！
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市外の人を呼び込む！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内在住者の満足度 ↑ ・ (結果として) 転入増



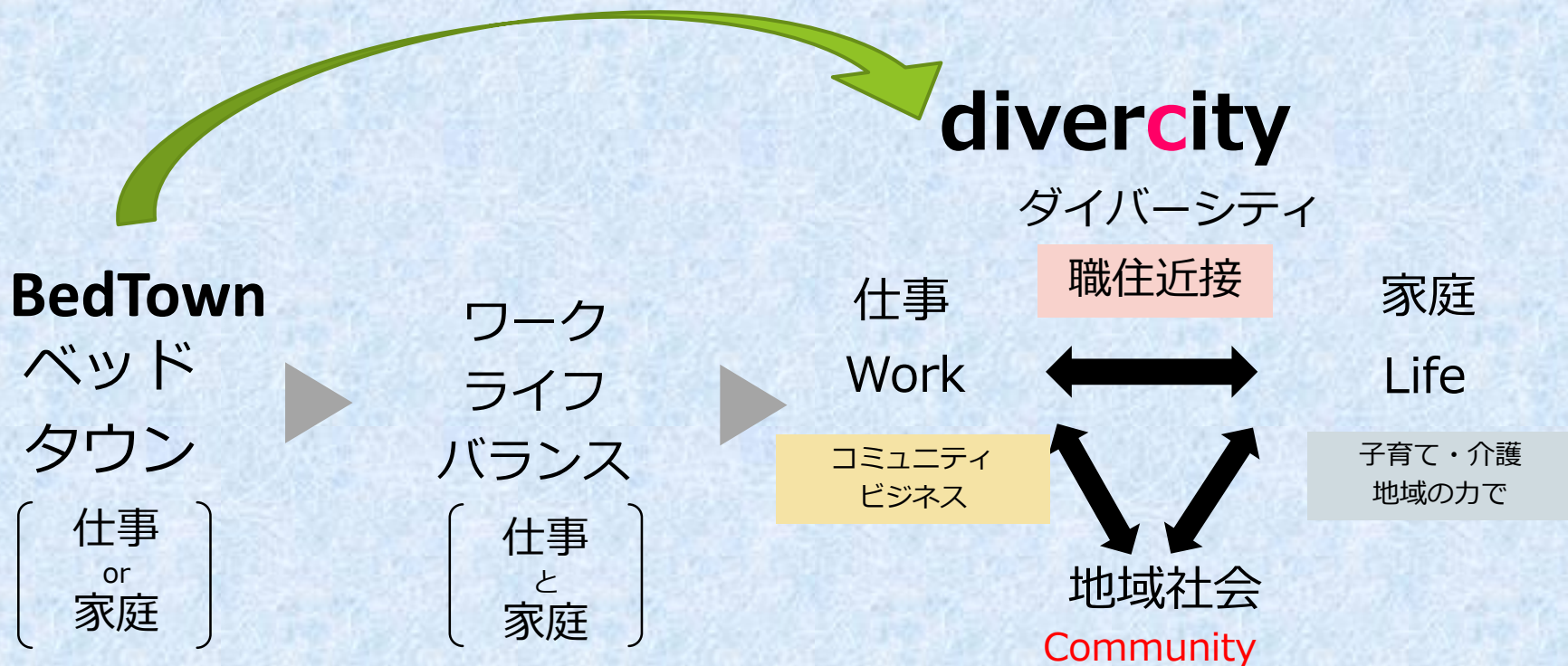
具体的な取組：100の複合型コミュニティづくり



最大の移動・生活支援を市民・事業者による運営で実現！



2. ワーク・ライフ・コミュニティの融合



具体的な取組① いこママまるしえ

毎月第3木曜日にベルステージにて開催され、生駒で暮らすママが自分の好きなことや得意なことを生かし、自ら出店している



具体的な取組② オトコノ定年前セミナー

定年後も自分らしく心豊かに過ごすため、会社や組織で働くこととは違う自分を探すセミナーを開催



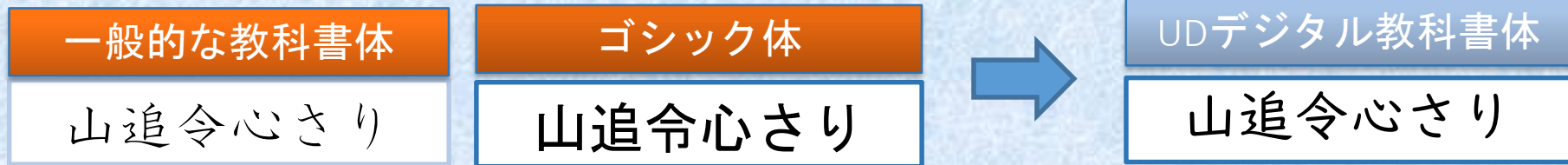
3. 12万人総親和のまちづくり

市民全員のかを一つにする(Inclusive)

- ・ 生駒市内の各地域、新旧住民、各世代間、また、疾病や障害の有無、国籍や性別などの違いを超えて、それぞれの特色を生かしながら自然な形で融和
- ・ 生駒市民12万人が助け合いながらもお互いの力を合わせて安心して楽しく過ごせるまちづくり




具体的な取組① UDフォント



具体的な取組② 情報・コミュニケーション条例

窓口でのタブレットを使用した遠隔手話サービス、印刷物へのUDフォントの導入など、障がいのある方が安心して暮らし、活躍できる「ユニバーサルコミュニケーション都市」を目指す

 **障がいを持つ人も持たない人にもやさしいまちづくり**



4. 「稼ぐ」まちづくり

生駒市の強みや特性を最大限に生かす

- ・ 事務事業の見直しなど徹底したコスト削減
- ・ 市民・商工会議所・事業者等とともに住宅都市いこまの強みや特性（自然・伝統、先端技術、退職者や主婦のスキル、市民力など）を生かしたまちの活性化



具体的な取組① 観光の振興

- ・インバウンド対象（語学力）
- ・グローバル体験（ふれあいの機会）
- ・リタイア層、主婦層の活躍（空き家民泊、ゲストハウス経営）
- ・歴史、文化、自然はもちろん、日常生活を観光資源に
（文房具、ヘアカット、整体、学校や市役所などのコト体験）



生駒市を **（望ましい）観光者の拠点**にする



具体的な取組② 農業の活性化

- ・ 専業農家のリクルート、生産や販促の支援
- ・ 農地の集約、施設改修促進
- ・ 地場野菜の魅力発信、給食センターでの利用拡大
- ・ 特産品化、6次産業化支援
- ・ イノシシ対策（集落単位での柵設置など）
- ・ より魅力的な農業イベント
- ・ 自治会などへの訪問販売



➡ **農業のワークショップ**を開催予定



5. 最先端技術と自然・歴史・芸術をつなげる

- AI、ICT、ロボット、バイオなどの最先端技術と、全国屈指の豊かな自然・伝統文化・芸術が融合するいこまの特性を最大限に生かしたまちづくり
- 2025年大阪万博を活かし、世界的にも大きな注目を集める地域を創る



具体的な取組 学研高山地区第2工区

- ICT、AI、ロボットなどの最先端技術（Society5.0）
- 学研生駒テクノエリアとの連携
- 里地、里山の自然をしっかりと残す
- グローバルな地域づくり
- 伝統、文化、歴史とのシナジー
- 生駒市の地域課題への対応



- ➡
- 地権者の会の組織化、マスタープラン検討会での議論
 - 東京オリンピック・パラリンピック、大阪万博により日本に寄せられる関心の受け皿へ



IV さいごに



生駒市は令和3年11月1日に市制50周年を迎えます

これまでの50年はベッドタウンとして発展



これからの50年は、ベッドタウンを卒業し

5つのキーワードを具体化する令和時代の

新しい住宅都市のモデルを目指します！

